

## 計算リソースについて

経済産業省 商務情報政策局

本事業で助成対象となる計算リソース利用料は、GPU リソースと GPU リソース以外の計算リソースの費用となる。提案時に、基盤モデル開発に必要な計算リソースの費用を計算リソース提供事業者と調整の上、計算リソースの種類、利用期間、費用等を申請書に記載し提出すること。なお、当該計算リソースの利用料が為替変動の影響を受けるものである場合、将来の為替変動を考慮した金額で申請することを認める（ただし、その際の為替想定を明記すること）。

この際の計算リソース利用料には、①基盤モデル開発（基盤モデルとは、フルスクラッチで開発したモデル、既存モデル（国内で開発されたものに限らない）を事前追加学習したモデル、国内で開発された基盤モデルをファインチューニングしたモデルを指し、その開発に必要なデータ整備やモデルの自社内での実証を含む）、②基盤モデル開発に不可欠なモデルの外部提供に必要な環境構築（RAG や Agent 等のツール構築、サービス提供に必要なインターフェースの開発）、③基盤モデル開発に不可欠なモデルの外部提供（ただし本事業期間は無償での提供に限る）の実証に必要な推論基盤に係る計算リソースの利用料が含まれる。

本事業への申請にあたって、申請内容に上記①を含むことを必須とする。その上で、①から③の内容を、複数の事業者が共同で実施することを認める。③を実施する場合には、社会実装への道筋がより明らかなものとして評価する。

計算リソースは、提案者が計算リソース提供事業者と個別に調整し直接確保すること。ただし、学術機関等（国公立研究機関、国立大学法人等及びこれらに準ずる機関）から計算リソースを調達することはできない。審査においては、計算リソース調達が具体的に計画できているかも審査の対象となるため、計算リソース提供者と調整の上、使用する計算リソース量や利用期間、価格、計算リソース提供者との調整状況等について、できる限り具体的に申請書に記載の上、提出が必要。

研究開発期間については、NEDO の交付決定日（2026 年 7 月下旬を想定）後から原則 6 ヶ月の予定。助成対象となる経費は、交付決定後に契約を締結したものに限るが、研究開発期間（原則 2026 年 7 月下旬～2027 年 1 月下旬を想定）の前後を含めて計算リソースを確保することは妨げない。ただしその前後の計算リソースの費用については、助成の対象外となる。該当する形で計算リソース確保を検討する場合は、NEDO の課題設定型産業技術開発費助成事業事務処理マニュアルも参照すること。

「計算リソースについて」の内容や、計算リソース提供者との調整に関して、不明点がある場合は、以下<連絡先>までご連絡ください。

<連絡先>

商務情報政策局 情報産業課 AI 産業戦略室

担当：近藤、鶴岡、宮川、丸山

メールアドレス：bzl-geniac★meti.go.jp

※「★」を「@」に替えて送付してください。

※連絡の際は事業者名、担当者名、連絡先（電話番号・メールアドレス）を記載してください。

以上